

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載

【部門区分】第 3 部門第 2 区分

【発行日】平成29年11月9日 (2017.11.9)

【公表番号】特表2015-522569(P2015-522569A)

【公表日】平成27年8月6日 (2015.8.6)

【年通号数】公開・登録公報2015-050

【出願番号】特願2015-518611(P2015-518611)

【国際特許分類】

A 6 1 K	47/50	(2017.01)
A 6 1 K	39/00	(2006.01)
A 6 1 K	39/35	(2006.01)
A 6 1 P	37/06	(2006.01)
A 6 1 P	29/00	(2006.01)
A 6 1 P	37/08	(2006.01)
A 6 1 P	25/00	(2006.01)
A 6 1 P	3/10	(2006.01)
A 6 1 P	1/00	(2006.01)
A 6 1 P	11/06	(2006.01)
A 6 1 K	47/32	(2006.01)
A 6 1 K	47/34	(2017.01)
A 6 1 K	9/127	(2006.01)
A 6 1 K	47/24	(2006.01)
A 6 1 K	47/28	(2006.01)
A 6 1 K	9/48	(2006.01)
C 0 7 K	17/08	(2006.01)
C 0 7 K	17/04	(2006.01)

【 F I 】

A 6 1 K	47/48	
A 6 1 K	39/00	H
A 6 1 K	39/35	
A 6 1 P	37/06	
A 6 1 P	29/00	
A 6 1 P	37/08	
A 6 1 P	25/00	
A 6 1 P	3/10	
A 6 1 P	1/00	
A 6 1 P	11/06	
A 6 1 K	47/32	
A 6 1 K	47/34	
A 6 1 K	9/127	
A 6 1 K	47/24	
A 6 1 K	47/28	
A 6 1 K	9/48	
C 0 7 K	17/08	Z N A
C 0 7 K	17/04	

【誤訳訂正書】

【提出日】平成29年9月28日 (2017.9.28)

【誤訳訂正 1】

【訂正対象書類名】特許請求の範囲

【訂正対象項目名】全文

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項 1】

負のゼータ電位を有する、カルボン酸で表面官能化された、ポリ（乳酸 - c o - グリコール酸）担体粒子に結合した抗原を含む、組成物であって、

前記抗原が、前記担体粒子内に封入され、

前記粒子の前記ゼータ電位が、 $-75\text{ mV} \sim -40\text{ mV}$ 、又は $-50\text{ mV} \sim -40\text{ mV}$ である、

組成物。

【請求項 2】

前記粒子が、約 80 : 20 ~ 約 100 : 0 のモル比を有するコポリマーである、請求項 1 に記載の組成物。

【請求項 3】

前記粒子が、約 0.1 μm ~ 約 10 μm 、約 0.3 μm ~ 約 5 μm 、約 0.5 μm ~ 約 3 μm 、約 0.5 μm ~ 約 1 μm 、又は約 0.5 μm の直径を有する、請求項 1 に記載の組成物。

【請求項 4】

前記抗原が、自己免疫抗原、対象に移植される組織上に発現される抗原、またはアレルゲンを含む、請求項 1 に記載の組成物。

【請求項 5】

前記抗原が、ミエリン塩基性タンパク質、アセチルコリン受容体、内在性抗原、ミエリンオリゴデンドロサイト糖タンパク質、膵細胞抗原、インスリン、グルタミン酸デカルボキシラーゼ（GAD）、11型コラーゲン、ヒト軟骨 gp39、fp130-RAPS、プロテオリピドタンパク質、フィブリラリン、低分子核小体タンパク質、甲状腺刺激因子受容体、ヒストン、糖タンパク質 gp70、ピルビン酸脱水素酵素ジヒドロリポアミドアセチルトランスフェラーゼ（PCD-E2）、毛包抗原、A-グリアジン、ヒトトロポミオシンアイソフォーム 5、パヒアグラス花粉（BaGP）、モモアレルゲン Prup3、s-1カゼイン牛乳アレルゲン、Apig1セロリアレルゲン、Berel1ブラジルナッツアレルゲン、B-ラクトグロブリン牛乳アレルゲン、ウシ血清アルブミン、Cor1.04ヘーゼルナッツアレルゲン、および卵白アルブミン卵アレルゲンからなる群から選択されるタンパク質を含むか、前記タンパク質の少なくとも一部を含む、請求項 4 に記載の組成物。

【請求項 6】

前記粒子が、生分解性である、請求項 1 に記載の組成物。

【請求項 7】

前記粒子が、表面官能化される、請求項 1 に記載の組成物。

【請求項 8】

薬学的に許容される担体をさらに含む、請求項 1 ~ 7 のいずれか 1 項に記載の組成物。

【請求項 9】

当該組成物を対象に投与することによって前記対象において抗原特異的寛容を誘導する方法に使用されるための、請求項 1 ~ 8 のいずれか 1 項に記載の組成物。

【請求項 10】

前記投与が、疾患または状態を治療または予防するために行われる、請求項 9 に記載の組成物。

【請求項 11】

前記疾患または状態が、自己免疫疾患、炎症性疾患、アレルギー、移植拒絶反応、または過免疫応答である、請求項 10 に記載の組成物。

【誤訳訂正 2】

【訂正対象書類名】明細書

【訂正対象項目名】0039

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

【0039】

本発明の粒子は、特定のゼータ電位を有することができる。特定の実施形態において、ゼータ電位は負である。一実施形態において、ゼータ電位は、約 - 100 mV 未満である。一実施形態において、ゼータ電位は、約 - 50 mV 未満である。特定の実施形態において、粒子は、- 100 mV ~ 0 mV のゼータ電位を有する。さらなる実施形態において、粒子は、- 75 mV ~ 0 mV のゼータ電位を有する。さらなる実施形態において、粒子は、- 60 mV ~ 0 mV のゼータ電位を有する。さらなる実施形態において、粒子は、- 50 mV ~ 0 mV のゼータ電位を有する。さらなる実施形態において、粒子は、- 40 mV ~ 0 mV のゼータ電位を有する。さらなる実施形態において、粒子は、- 30 mV ~ 0 mV のゼータ電位を有する。さらなる実施形態において、粒子は、- 20 mV ~ + 0 mV のゼータ電位を有する。さらなる実施形態において、粒子は、- 10 mV ~ - 0 mV のゼータ電位を有する。特定の実施形態において、粒子は、- 50 mV ~ - 40 mV のゼータ電位を有する。